

1 日 時

- 平成29年11月17日（金） 14:30～17:00

2 会 場

- 県庁4号館 教育委員会室

3 出席者

- 宮崎県生涯学習審議会委員
宮本委員、中村委員、美根委員、柿木委員、大山委員、野崎委員、長鶴委員、島中委員、相戸委員、青木委員、吉里委員、岡林委員、竹村委員、川越委員、松野委員

4 開会行事

- 会長あいさつ

5 説 明

- 答申案について（※事務局より説明）

6 協 議

「持続可能な地域社会を創るみやざきならではの生涯学習の在り方について」

議 長 はじめにから章ごとに審議をすすめたい。まず、「はじめに」の部分で何か意見等はないか。

委 員 事務局の方から分かりやすく説明いただいた。我々が審議してきた内容が答申案によく反映されている。細かいことであるが、3行目の部分の「人口減少が進行」とあるあるが、「人口減少の進行」ではないか。また、下から2段目の段落にある「自己の能力を高める」の部分だが、「高める」は、「維持・向上させる」ではどうか。自己の能力を向上させるのも意識がなければ向上にはつながらない。向上の根底には、「維持する」という意識も必要だと考える。

議 長 特に「高める」の部分について、他の委員の意見はないか。（特になし）今の意見に対する事務局の考えはどうか。

事務局 委員の考えも理解できたので、全体を見て検討する。

議 長 つぎに第1章について意見はないか。「年齢5歳階級別県外転出入数」は、グラフかなにかつけるのか。

事務局 答申の本文中にはグラフ等を入れる予定はないが、入れた方が分かりやすいという意見があれば検討したい。

委 員 「2 県の現状」の部分で、宮崎県は合計特殊出生率は全国 3 位であるが、出生数は右肩下がりとなっているとあるが、宮崎県と都市部では、人口の分母が違うので、当然生まれてくる数は少ないと思うのだが、誤解を与えないような表現の仕方はないか。

事務局 検討したい。

委 員 同じ部分の次の段落に「15 歳から 25 歳の若い世代の県外転出者数が特に多い」という部分であるが、その原因について、2 章以下に書かれてある部分はあるか。

事務局 対応する部分を入れたい。

議 長 自治公民館の加入率の部分と、以下の文章とのつながりについて教えてほしい。

事務局 自治公民館の加入率については、県市町村課の調査に基づいている。本県は、平均すると 7 割近くの加入率であり、全国的にみても高い方であるといえるが、一方で県民意識調査によると、「地域のつながりは強い」と回答している県民はそこまで高くないという相反するデータを地域コミュニティの衰退を見る指標の 1 つとして載せた。

議 長 第 1 章は、国や県の課題がよくまとめられている。他になければ第 2 章について意見はないか。

委 員 県民意識調査をデータとして使っているが、27 年度と 28 年度の両方があるのはなぜか。

事務局 年度によって調査項目が異なっており、最新の調査にない項目があったため一部前年度の調査を使用した。

委 員 ただ最新データがある部分もあるようなので、再度確認をお願いしたい。

事務局 確認する。

委 員 「豊かさ」の満足度について、5 つ挙げてあるが、パーセントの高い順に 1 位から 5 位まで並べなおした方がよいのではないか。

事務局 この部分は、すぐ上の文章を受けての満足度について、それぞれのパーセントを記載しているところであるが、上の文章と同じようにパーセントで書かれているため、読み手が混乱する可能性がある。表現の仕方を考えたい。

委 員 「1 みやざきのよさ」のはじめにある「健康・医療など」の部分について、私が出席している総合計画審議会の中で、福祉の専門家から医療と福祉はセットしてほしいという話題がよく出される。また、社会福祉協議会は様々な講座も企画されている。是非、「福祉」という言葉を入れてほしい。

事務局 了解した。

委員 「新しいゆたかさ」の部分であるが、はじめの方には「経済的なゆたかさとお金にかえられない価値との両方が調和した」ものであると書かれてあるが、最後の部分で書かれている「新しいゆたかさ」は、同じ言葉なのだが、表していること違うような気がする。

事務局 「新しいゆたかさ」については、様々なところから文言を抜粋しており、混乱を招く部分もあるようなので、表現を変えるなどの検討をする。

委員 「新しいゆたかさ」がこれ以降重要なキーワードになっている。「新しいゆたかさ」とは何かということが示されていないと、最後がぶれてくるのではないか。

議長 4ページのソーシャルビジネスの部分であるが、本県がソーシャルビジネスが盛んであるというのは、本に記載があるのか。

事務局 注釈にある雑誌に特集が組まれており、宮崎県の記載がある。

委員 「みやざきならではの学び」の最初の部分について、「今後も現在住んでいる地域に住み続けたい」と考えている県民は80.1%と数値で示してあるが、「地域のよさについて考えたり、世代間で共有したりする学びは十分であると言い難い」とする根拠は何か示さなくてよいのか。

事務局 根拠となるデータがないか調べたい。

委員 「みやざきならではの学び」がキーワードとなっているが、「地域の役に立ちたいと考えている人が多く存在すると思われる」のはなぜ思われるのか、「地域のよさについて考えたり、世代間で共有したりする学びは十分であるとは言い難い」のは、どのような理由なのか、の部分が弱いのではないか。

事務局 先ほどの質問と併せて検討したい。

委員 5ページの「体験する学びの有効性」の部分に、「学ぶ楽しさ」と「喜びを感じる」の前に、それぞれ「共に」という言葉を入れてはどうか。個人だけでなく地域の方々も一緒にレベルアップするということではどうだろうか。

議長 貴重な指摘をいただいた。関連する項目がある場合は、章をまたいだ質問でも構わないので、他にないか。

委員 3ページの「新しいゆたかさ」について、私は上の段にあるように、経済的なゆたかさを含めたものが「新しいゆたかさ」だと考えているが、後半部分に出てくる「新しいゆたかさ」では、経済的なものはどのような扱いになるのか。

事務局 「新しいゆたかさ」は、すでに県として定義している言葉であるので、同じ言葉を使う以上は、同じ捉え方をしなければならないと考えている。

したがって、今回の答申で示す「みやぎきのよさ」は、県が定義している「新しいゆたかさ」と完全にイコールではないので、別の表現を使った方がよいと考えている。

委員 仕事があって収入という裏付けがなければ、本当の「ゆたかさ」ではない。衣食住が満ち足りてなければ、心の余裕もない。心の豊かさには、経済的なものも必要であるということにも触れて表現することも考えられる。

(休息)

議長 次に第3章について意見はないか。

委員 6ページの(小中高大)の部分で、「発達段階から考えると、小学校段階でいきなり「参画」するというのは難しい。」とあるが、私は小学校であっても発達段階に応じた「参画」ができるのではないかと考えている。発達段階に応じた参画ができるように検討して、学校のカリキュラムに位置付けることで、参画の意識が少しずつ高まってくるのではないか。後の部分に、子どもが参画の段階から関わりとあるので整合性がとれないと思われる。

もう1点は、(子育て世代)の部分で、「社会参加のきっかけ」とあるが、「参加」の後に「・参画」という言葉も入れる必要があるのではないか。「参加」があって「参画」があるという流れになっているが、「参画」が先にあって、「積極的な参加」につながるということもある。また、「参加と参画の考え方」については、5ページにもあるが、参加には、消極的な参加と積極的な参加もあるという文脈の方がよいのではないか。

委員 全体的によくまとめてあると思うが、第2章の「新しいゆたかさ」について、県が既に報告書等で使われている言葉なので、定義されているものが変えられないというのは理解できるが、ここで使うのであれば「新しいゆたかさ」の部分は少し言葉が足りない。対抗軸としての「古いゆたかさ」との違いについて、読み手が混乱するので、「新しいゆたかさ」についての定義を脚注か本文に入れた方がよい。

第3章全体を読んだ印象だが、第2章までと比べて、「みやぎならではの学び」とう部分が削ぎ落とされて、一般論としての「参加・参画論」にきれいにまとめられすぎている感がある。第2章までは、アンケート調査等用いながら、自然の豊かさや地域コミュニティ、祭りや伝統文化などのことに触れているので、第3章の部分にも「みやぎならではの」参加・参画論とするべきではないか。

例えば、6ページの(小中高大)の部分であるが、乳幼児期から地域の祭りや伝統文化の参加を促し、次第に参加から参画する、というような表現にすると、小さい頃から祭りや文化に触れていくことが「みやぎならでは」になるのではないか。そうすることで一般論から具体的なものが見えてくる。

また、全体的なつくりであるが、小中高大というくくりになると、「乳幼児」が落とされるし、中学校を卒業して進学しなかった青年たちがどこに位置付くのか、とい

うことになる。くくりが難しいが、「子ども」、「青年期」とするのがよいのか、そのなると、その後の「子育て世代」や「子育て以降世代」のくくりでよいのか。特に「人生100年時代」を前半でも述べられているため、高齢者世代の活躍が重要である。審議会の議論は、この3つで行ったのだが、もう少し丁寧に書いてもよいのではないか。その上で、1つ1つの世代にあまり重たくなりすぎずに「みやぎきならでは」の具体的事例を盛り込みつつ、それぞれの世代ごとの「参加・参画論」になるとよいのではないか。

最後に、説明でもありました「コーディネーターの必要性」であるが、第3章の中に、4つ目の柱にしてもよいのではないか。議論の中にもかなりコーディネーターの養成という話も出され、それに対する社会教育主事の役割などもあり、行政の役割ということも必要であると考えてるので、この部分はもう少し分量があってもよい。

議長 全体の構成について貴重な意見をいただいた。他にないか。

委員 5ページの「参画」への段階的な方策の部分の表現についてだが、「広く学びを出会わせる段階」「自ら学びを創らせる段階」「小さな実践を行わせる段階」と、押しつけ感があるのが気になる。自発的な学びに向かせるような表現にならないか。

議長 事務局の方で検討していただきたい。

委員 5ページの「参加」と「参画」への部分であるが、「参加」から「参画」は一方通行ではなく、循環するような感じではないか。そうすると、先ほど話したように「参加と参画の考え方」についても変わってくる。

委員 私も同じような意見で、先ほど出た「積極的な参加」について、例えば、あるイベントの実行委員には入らないが、毎年積極的に参加するという場合がある。参画となると実行委員に入らなければならないとなるので、そこは違うのではないか。

委員 参画といったとき、祭りなどにおいて、子どもが企画する子どもなりの参画がある。そのことがきっかけで様々なことに参加していくという循環ができる。そういったことも目指す必要があるのではないか。

議長 第3章の2の部分の意見が出ておりますが、事務局の方で対応できるか。

事務局 頂いた意見を踏まえ検討したい。

議長 他にないか。

委員 コーディネーターの必要性の部分で、学校と学校、学校と地域、家庭と地域、地域と地域という表現は、それぞれ個別のコーディネートに見えるが、全て一緒にコーディネートする場面もあるので、表現を変えられないか。

委員 同じ部分で、学校・家庭・地域とあるが、企業の立場から言わせてもらおうと「企業」

も入れてほしい。CSRという考え方もある。

委員 同じコーディネーターの必要性の部分で、企業もだが、社会教育活動している団体もたくさんあるので、そこの連携も必要ではないか。

委員 第3章の1で、学びを地域づくりに生かすには、「魅力と活力ある地域づくりが必要」であり、そのために「体験する学び」と「地域の多様な人材の活用」が大切だがあるが、「体験する学び」に比べて「地域の多様な人材の活用」が、コーディネーターの必要性の部分だけなので、もう少し分量を増やせられないか。

宮崎にはたくさんの人材がいるので、それが地域の祭りなど「みやざきならでは」というものにつながってくるのではないか。

議長 事務局の方から補足はないか。

事務局 項目によって分量が少ない部分は、あまり議論で出ていなかった部分であるので、本日出された意見をもとにもう少し膨らませていきたい。

委員 学校の場合において、地域の方が学んだことを生かすことが、地域づくりの1つになると考える。地域の方々が、学んだことを学校で披露することで、達成感や有用感を感じることができている。学校という施設が、人と人をつなげる場になるのではないかと考える。6ページの「正しい仕組みづくりが必要」の部分であるが、この仕組みについても、4項目で起こす必要があるのではないか。

議長 全般にわたって何かないか。

委員 3ページから4ページの部分で、「みやざきのよさ」とは、「新しいゆたかさ」が残っていることがみやざきならではのよさであるとあるが、次のページの「みやざきならではの学び」についてが分かりにくい。「みやざきならではの資源を掘り起して、価値を見出して県民に発信する学び」と捉えてよいか。2段落目と3段落目が被っているように感じる。

事務局 少し整理したい。

委員 4ページの4段落目の「本県の県民性は、穏やかで人柄がよいが受け身的と言われ、諸活動へ参加するような積極的な仕掛けが必要である」の部分だが、まさにこれに尽きると思う。活動は大事だと思うが、一歩踏み出せないときに、コーディネーターの存在が必要である。地区で自治会活動を行う高齢者グループなどが様々あり、学校で力を発揮したいと考えている人たちはたくさんいる。しかし、どうやって学校につながるのかというのが分からない。そのような仕組み、仕掛けを具体的な手立てを例として紹介してはどうか。

事務局 最後の部分に、好事例を載せる予定であるが、今の意見も参考にしたい。

- 議長** 2月の審議会では事例集も出る予定か。
- 事務局** できるだけ最終案として出したい。
- 委員** コーディネーターの必要性を付けるということであるが、「コーディネーター」という言葉が、一般の人に分かるような説明が必要ではないか。
また、4ページに、「生涯学習・社会教育行政の役割」が出てくるが、最後の部分で行政がどう関わってくるのかが見えてこない。
- 事務局** コーディネーターだけでなく説明が必要な言葉は、他にもあると思われるので、その観点からも意見を頂きたい。行政の役割については、検討する。
- 委員** 4ページの最後の部分で、「みやざきの魅力や地域のよさを実感し、生まれ育った地域で生活し続けたいと思う県民やみやざきに移住したいと思う人を増やすことができる」とあるが、様々な施策を行っても、「発信」がないと、宮崎に残りたい、宮崎に来たい、という気持ちは生まれてこないのではないか。発信を行政が行うのか、企業が行うのかは分からないが、発信してこそ魅力を伝えることができるのではないか。最後の項目に付け足すのが適切かは分からないが、「発信の場」が大切ではないか。
- 議長** 今の発信について、私が現役のころは地域へ学生を連れて行っても、そこで終わっていた。しかし、最近はテレビや新聞等のマスコミにおいて、学生等の地域における活動を積極的に報道してくれているように感じる。
- 委員** 発信するというのは、情報の共有も含めて必要であると思う。4ページ3段目の「価値を見出して県民に発信する学び」とあるが、後にある移住したい人などを増やしたいと考えるなら、県民ではなくもう少し幅広く、例えばネットを使うなどして発信するということも入れた方がよいのではないか。
- 委員** 今のところにも関連するが、4ページのところで、文末だけ見ると「～が必要である」という表現が多く、課題が提示されてある。そうであれば、次の3章の部分で、その対策というか、解決案が載っていないといけないと思うが、連携されていないような気がする。
- 委員** 4ページの最後にある少子高齢化、人口減少の捉えが甘い気がする。人口減少を抑えることは難しいので、減っていく中でも元気に存続できる地域づくりを意識して表現できないか。
- 委員** 根本に戻るが、「持続可能な地域社会を創る」という言葉がでてきたのは、宮崎県の地域社会が持続可能できるのかという危惧があり、生涯学習が1つの方策だと捉えると、どのようなことを行えば本当に人が増えるのか、ということ強くうたってもよいのではないか。また、どのように答申を作ったら、総合計画に反映できるのかよく分からないので教えてほしいが、先ほどもあった、「～が必要である」というキーワードは、残しておいた方がアクションプラン等の具体的な方向性を作り易いという

ことであれば、このままある程度残した方がよいのではないか。

事務局 まさに言われたとおりであるが、答申の中で解決策を全て示してしまうと、それを必ず行うことになり、答申の意味合いも変わってくる。この答申では、課題を示すことで、次のアクションプランなり、教育委員会の教育振興基本計画なりに生かされ、具体的な事業につながってくる。したがって、あまり縛りすぎることなく、多少の方向性は示した方がよいと考えている。また検討したい。

議長 アクションプラン等に反映できるよう、両委員の意見を踏まえて、表現の仕方の工夫をしてほしい。

委員 課題や必要性を示してあるので、現段階で示すことができる方向性を記載するだけでよいのではないか。それが全ての解決策ではないので、現段階ではこのような取組が見られるという形で例示されていればよい。例示されている他の地域での取組を知ることによって、考えるきっかけになるという答申でよいのではないか。

議長 なければ以上で協議を終わり、事務局へ返したい。

事務局 注釈が必要な言葉や、最後に付ける実践事例などがあれば、今後も意見をいただきたい。

7 閉会行事

- 生涯学習課長あいさつ
 - 諸連絡
- ※次回の審議日程について